6月の特別支援
子どもたちとのコミュニケーション アイデアと感覚への配慮

6月はお天気もすっきりせずじめじめして、なんとなく気分が滅入ることがありますよね。

最近教室に行くのがなんとなくおっくうだ、つらい、なんてことはありませんか？　職員室にいる時間が長くなり、しかも同僚の顔よりパソコンの画面を見つめている時間のほうが多くなったあなた、危険信号ですよ。

さあ、パソコンをそっと閉じて、積極的に子どもたちや同僚とコミュニケーションを図ってみましょう。

特定の子に気持ちが向いていませんか？

さてこの時期は、様々な配慮が必要な子どもたちを含む、個性豊かなクラスの面々との2か月が瞬く間に過ぎて、やっとクラスが軌道に乗り始める頃です。

先生が特に気がかりな子、配慮を要する子と真剣に向き合っていればいるほど、ついその子たちばかりにかかわってしまいがちになります。

でも、他の子どもたちとのかかわりはどうでしょうか？　クラスには必ず、控えめで手がかからないがゆえに存在感の薄くなってしまう子がいるものです。

けなげでまじめな子を大切に

この1週間を振り返り、クラスのメンバー一人ひとりとどうかかわったかを思い出してみてください。すると、どうしてもエピソードが思い出せない子が出てしまう場合があります。特に、個性豊かな子が多いクラスでは、先生を困らせることもしないし、勉強や運動がずば抜けてできるわけでもない、そんな目立たない子たちの影が薄れてしまうことがあります。

しかし、学級経営で大切なのは、そんな「けなげにまじめに静かに」してくれている子たちにも気を配ることではないでしょうか。担任が安心して特定の子にかかわれるのも、実はこういう子どもたちがクラスを支えてくれているからこそなのです。

日々の指導に追われてついついかまってあげられない子どもたちを認め、その

存在に感謝することが、やわらかく、温かいクラスづくりにはとても重要なことなのです。

ふわっとサポート53 「今日必ず声をかける子」を決める

積極的にかかわりを求めてくる子に比べ、おとなしい子、手のかからない子とはどうしても接触が減ってしまいます。そういう子については意識してかかわれるよう、毎日、「今日は○○さん」と、目標の子を決めておくとよいでしょう。

ふわっとサポート54 連絡帳に「先生への一言」を

連絡帳に「先生へのメッセージ」、あるいは、小学校低学年なら、「先生あのね……」で始まるメッセージを、毎日必ず数行書かせるようにします。内容は、最近あったことや興味があることなど、何でもいいのです。

子どもたちは「日曜に家族でディズニーランドに行った」とか「昨日姉とケンカした」とかと書くでしょう。そのことを話題にすれば、おとなしい子にもより声をかけやすくなります。

また、これは、子どもたちを「書く」ことに慣れさせるという効果も期待できます。

学級通信をうまく使おう

クラスの子どもすべてを大切に、と言っても、授業や学活の中ですべての子をほめたり、認めたりすることは大変難しいものです。そこで、学級通信を使って子どもたちの頑張りや活躍を目に見える形でまとめ、ほめることがとても有効になります。

さらに、保護者に対しても、親からほめてあげてほしいことを学級通信に記載しておいてあげれば、発達障がいを持つ子の頑張りや活躍が、家庭に伝わりやすいのです。

ただし、学級通信作成にあたっては、むりせず「サッとつくれる」「ずーっと続ける」ことを第一に考えましょう。

ふわっとサポート55 学級通信のタイトルにひと工夫

タイトルを考える際には担任の遊び心が大切です。

また、小学校低学年用の通信は、ひらがなのタイトルにしましょう。子どもたちが興味を持ってくれるように配慮することがポイントです。

ふわっとサポート56 学級通信は継続する

ずっと続けられるよう、字は大きめ、文章量は少なめで、絵や写真を多くします（例えば、デジカメで撮った「子どもたちの様子」を毎回載せる、など）。

ふわっとサポート57 作文や絵など子どもの作品を掲載する

その際、最終的にはクラス全員を載せられるよう、表をつくって誰のことを紹介したかを必ずチェックしましょう。

チェック表には、氏名、掲載した日、作品の種類などを記録します。

15 サッとツール カット用イラスト（児童作）

小さな紙を常備しておき、授業中課題

が早く終わった子にはイラストを描いてもらい、あとで回収します。裏に必ず名前を書くよう指示しましょう。感想文などが苦手で学級通信に作品を掲載してあげる機会が少ない子には、このイラストを載せてあげます。もちろん「イラスト担当○○さん」と名前入りで。

ちなみに、一生懸命つくった学級通信が教室に落ちているのを見てがっかりすることがあります。あるいは「この子の保護者にぜひ読んでほしいな」と思う、いちばん読んでもらいたかった保護者が読んでくれていない、ということも。でも、これぱっかりは、ある意味であきらめが肝心かもしれません。

とはいえ、保護者に関心を持ってもらうヒントを一つあげておきましょう。

ふわっとサポート58 保護者からの温かいコメントを載せる

保護者が連絡帳やアンケートに書いてくださったうれしいコメントを載せましょう（もちろんご本人のご了承を得てからです）。

学級通信を通して保護者と交流を深めることはとても大切です。繰り返しになりますが、凝ったものをつくろうとすると、忙しさから継続が困難になってしまいます。苦痛にならない程度の手間をかけ、ぜひ継続させてください。

西埼玉LD研究会の中に、こんな経験をした教員がいます。クラスのお母さん方が学級通信をとても楽しみに見てくれて、年度末に1年間の学級通信をまとめて製本してくださったのです。それは、先生にとって励みにもなる、とてもうれしい記念となりました。

「発達障がいを持つ子の感覚」に配慮

さて、不快な梅雨の時期は、子どもたちにもつらい時期です。特に、発達障がいを持つ子どもたちは他の子より体温調節が苦手だったり、温度や湿度、気圧などに敏感だったりすることが多いのです。校舎は1階上がるごとに教室内の温度が高くなるようですから（もちろん空調完備の校舎は除きますが）、高学年が学ぶ3階や4階では温度への配慮が必要でしょう。

16 サッとツール 濡れタオル

「先生のタオルだけど、体調が悪そうだから特別貸すよ」「これは魔法のタオルなんだよ」などと言って、水で濡らして絞ったタオルを首に巻いてあげるとよいでしょう。アトピーの子にも効果があります。

17 サッとツール 扇風機

体温調節の苦手な子のために、扇風機を確保して教室の隅などに置くとよいでしょう。

ただ、皮膚感覚が過敏で扇風機の風を「痛い」と感じる子や、微かな回転音が気になる子もいるので、注意しましょう。

18 サッとツール 保冷剤

発達障がいを持つ子への暑さ対策として、ケーキや生ものを購入した際についてくる保冷剤を活用するとさらに効果的